

マイコプラズマ感染症

マイコプラズマ感染症

P6 発熱 P12 咳・呼吸が苦しい P160 登園停止

マイコプラズマ感染症について

肺炎マイコプラズマ（マイコプラズマニューモニエ）

の感染による呼吸器の感染症です。

4年程度の周期で大きな流行があるといわれています。

最近では2016年に大流行しました。

全体の約80%が14歳以下の小児です。

症状は？

潜伏期間は2～3週間で、

インフルエンザやRSウイルス感染症などの呼吸器疾患と比べて長いです。

発熱、喉の痛み、だるさ、頭痛など

風邪に似た症状からはじまります。

咳は発熱後3～5日からはじまり、コンコンと乾いた咳が多いです。

長引くと咳は徐々に強くなり、解熱後も咳だけが残る3～4週間続きます。



合併症は？

まれに心臓・脳・関節・神経などに様々な合併症を引き起こすことがあります。

治療法は？

抗菌薬を内服します。

マクロライド系抗菌薬（クラリスロマイシン、エリスロマイシンなど）をまず内服します。

通常内服後2～3日で解熱しますが、薬が効かないものも増えており、

テトラサイクリン系※（ミノマイシン）やニューキノロン系（トスフロキサシン）という抗菌薬を使うこともあります。

これらの治療をしている間に良くなるのがほとんどです。

呼吸が苦しい、水分がとれないなどあれば入院して点滴や酸素の治療を行います。

重症になるとステロイドの治療を行うこともあります。

現在のところ、予防するワクチンはありません。

※この薬は8歳未満の子どもには副作用の影響を考え、使用しません。

家庭での
ケア

Point

水分補給と安静



マスク

- 水分補給と安静を心がけてください。
- 咳がひどい場合も多いので、加湿器などでお部屋を加湿しましょう。
- のどの保湿にはマスクも有効です。
- 処方された薬は決められた期間はきちんと内服してください。

熱が下がれば
咳のピークが過ぎれば
登園OKですが
国によって方針が
違うので
国の指示に従ってください



予防の
ポイント

Point

手洗い・うがい・マスクの着用



流行している時期には手洗い、うがい、マスクの着用などの予防を行いましょう。

潜伏期間 2～3週間 改善まで 3～4週間程度